

第41期 2024 年度 第 9 回米委員会 & 水田視察(御船・山都地区) 議事録(青文字が発言等)

2025 年 7 月 16 日(水) 9:00～ 場所 御船・清和 全 13 名 (参加者 7 名 欠席 6 名)

ブロック	理事	理事	健軍	御領	杉並木	水前寺	大津	事務局	生産者	生産者	理事	生産者	生産者
名前	糸山	永井	池田	木下	中島	石田奈	田中	福岡	下田	田上	佐藤真	佐藤昭	高丸
出欠	×	○	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○×

書記 福岡

※両面印刷です

準備物: レジュメ、水田地図、虫見板、弁当代、飲み物、お菓子、ノートパソコン

本日のスケジュール

9:00～ 事務所出発(軽バンに乗り合わせて 運転: 福岡)
 9:30～ 御船(高丸さん) 水田視察 ※虫見板(むしみばん)
 11:00～ 清和(昭人さん・真実さん) 水田視察 ※虫見板(むしみばん)
 12:00～ 昼食(公民館にて)
 13:00～ 食べながら米委員会(販売状況、予約状況 他)
 15:00～ 現地解散
 16:00～ 事務所着、解散

※次回の御船山都地区方面の水田視察には
林田さんの水田も加わります

0 理事会・各委員会・事務所等からの報告・提案

理事会 役員選考委員会の動きとしては、本日16日、名前の上がってきた消費者さんへのお願い(電話)の結果が委員長の高山さんに報告されます

1 水田視察の感想など

・御船町高丸さん: 35×35cmに40株を植えている。田んぼにジャンボタニシがいて除草している。アキアカネも田んぼの上をいっぱい飛んでいて害虫を食べてくれる。椿油を流しホウキで苗からウンカを叩き落とし窒息させて防除する方法もある。猪よけの電柵について、市販の4分1で岐阜県の人より購入した。5枚の田のうち1枚に鹿が入って荒した。フェンスの上にもう一段電柵を張って鹿と猪をよけている。品種の特性、“くまさんの輝き”は分けつをする事で収量を増やす。又“ひのひかり”や“コシヒカリ”は穂重型で実を充実することで収量を増やす。苗は分けつし過ぎると風通しも悪くなり 虫がつく。光合成細菌を10日おきに10ℓ入れる。※下田さんの話 今年初めて植えた“てんこもり”は分けつ型で苗の色が薄かったので油かすをふった。肥料がたくさんいるように思う。※中山間地補助金は傾斜によって支給されるそうだ。

・山都町 佐藤真実さん: カモを始めから入れた下の田んぼは草もなく苗も緑濃い、後からカモを移動させた上の田んぼはまだ草も残っており苗の色も薄い。コナギが繁殖すると栄養を取ってしまう。

・佐藤昭人さん: 除草は中古の田植え機でチェーンを引っ張り1枚1時間ぐらいかかったが、3回引くと良いと思う。クロクワイが生えているが、代あけ作業をした時に浮くのを取り除けばその後あまり生えなくなる。放置すると丈も高くなり稲の成長に良くない。分けつは今20本位。35本くらいがベストで40本になると無効分けつが増える。中干しをすることで分けつを止める。※田上さんの話 除草はチェーンを入れた後ロボットを入れた。1日2時間 3週間スマホで操作した。今年ロボットは全国で1000台があつという間に売ってしまったそうだ。価格が半分になったことも要因か

2 稲作の状況 稲の生育状況は、総じて順調です!

高丸 猪がまだ来ない(稲穂が出来始めると来る)ので、電柵の一番下はまだ張ってない。張ると下草刈りが一層大変になる

佐藤昭人 6月1日に田植え。ヒエは残すと大変なのでその都度取ってしまう。草がだいぶ残っているので来年はもう少し早くチェーン除草をする。アイガモ農法は準備から後始末までいろんな意味で大変だと思う。

佐藤真実 アイガモを移動させて除草しているが、後になった田は草が残ってしまうだろう。草との闘い。ジャンボタニシは初期成育時に働いてもらいたいが、今年は越冬もせずなかなかうまくいかない。

下田 アイガモはもう上げた。分けつ具合と葉の色が少し心配だったので油粕を500kgまいた。その後分けつも無事進んだ。イナゴが多くいる田があつたのが心配だ。あと2回の田植えで辞めるつもりだ。アイガモを入れて36年になるだろうか。アイガモのおかげでたくさん作れるようになった。5/1～8/31までしか水が流れないので冬季に水を張ることはできない。

田上 1枚の田にヒエが生えてしまい、草取りを頑張っている。アイガモロボットを使ってみたが効果があつた。もっと値段がさ下がるといい。全部で8反しているが会に出せるのは1反8畝分。

3 在庫・販売状況(6月30日時点)

◎米

・在庫数量(袋)

総数	内訳	考える会			GF個人		F業者	
		予約米		追加米	未納米	予約米	追加米	追加米
		113	内備蓄米 0	6.6	7.1	13.8	6.2	0
146								0

・販売数量(袋)

会		GF個		GF業
予約	追加	予約	追加	追加
6 月	6 月	6 月	6 月	6 月
48.1	4.4	4.7	0.4	0

※考える会:10月までの残り3か月を追加米用6.6袋です。週に1kg限りを隔週でという販売制限を掛けてます。
新米が出るまで、1kgだけは出し続けたいのですが難しいようです。
※GF個人:6月の追加米注文はだいぶ落ち着いた感がありました。このままだと新米が出るまで持ちそうです。
ただし、販売制限は会と同様です。
※GF業者:無くなりました。 転換米:無くなりました。

◎米ぬか(No3092) (昨年年間販売数 64袋)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計(12ヵ月)
10	7	2	2	1	6	0	5	2	5	7	11	0	48

※米の販売制限と混同して休止にしてしまったため6月は0

◎焼酎 43度(3803)、25度(3804)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計(12ヵ月)	月末在庫数
43度	1	4	1	1	3	5	8	0	4	0	8	8	21	63	96
25度	2	6	13	5	26	12	59	16	17	20	5	24	5	208	262

・25度はすでに2024年産酒を販売しております。 43度は12月頃からの見込です。
・次の仕込みは、最近の売れ行きからすると2026年秋に備蓄米を使って、2027年4月出来上がりの予定です。

4 米委員会会だより(新聞) 9 月号の記事について 8月号は水田視察の写真を載せます

・なにも提案が無ければ、栗ご飯の4コマ漫画(藤吉さん作)を載せようと思いますがどうでしょうか 了解です

5 2025年産米の予約注文の受注状況 (7月16日現在) (※過去のデータは11月下旬の最終のものです)

	2020	2021	2022	2023	2024	2025	増減	新規注文者数	47 人	(内6人は再注文)
考える会	30kg玄米	196	203	212	192	193	322	129 袋	(昨年7人、一昨年15人、一昨々年36人)	
	10kg玄米	341	309	320	328	352	419	67 袋	・具体的にどのようにして減らしてもらうかを検討	
	5kg玄米	328	333	409	388	400	630	230 袋	・注別紙資料を参照	
	10kg白米	119	117	135	156	185	283	98 袋	・豊作で余裕が出来た場合	
	5kg白米	200	231	248	291	269	399	130 袋	・佐藤真実さんより、今期で会の生産者を	
	合計(30kg)	445	448	483	478	495	745	250 袋	辞める旨の挨拶が述べられた。通常作の	
	注文者数	153	157	183	187	185	222	37 人	出来なら計画の半分の70袋は出荷すると	
注文金額	794	798	862	856	888	1456	567.8 万円	のこと。140袋全量はどうなのかの問いに		
GF個人	30kg玄米	11	9.6	19	29	35	51	16 袋	対しては、無理という返答であった。	
	10kg玄米	60	58	10	0	12	42	30 袋	GF新規注文者数 14 人	
	5kg玄米	45	64	92	90	78	129	51 袋	・GF個人は会の減らす基準に合わせるということでした	
	10kg白米	3	18	12	6	12	76	64 袋	・注文を受け付ける範囲の確認。	
	5kg白米	34	19	16	13	8	36	28 袋	締め切り後に提出された予約注文は、昨年	
	合計(30kg)	46	50	45	49	58	121	63.39 袋	も予約していた人ばかりだったので受け付	
	注文者数	11	12	12	12	12	26	14 人	けることを確認。	
注文金額	84	90	81	90	90	237	147 万円	組合員以外の人(友人や家族)に関しては、		
								新規は受け付けないことを確認。		
								送ったり渡したりする分も、把握が困難だ		
								が、今年は受け付けないことを確認した。		

	会全体	会新規	会既存	会昨年	GF	GF昨年
30kg	322	53	269	193	51	35
10kg玄米	419	53	366	352	42	12
5kg玄米	630	130	500	400	129	78
10kg白米	283	24	259	185	78	12
5kg白米	399	115	284	269	34	8
30kg換算合計(袋)	745.4	123	622.9	495.3	121.7	57.93
注文件数	222	47	175	185	26	12
1件当り注文数量(袋)	3.4	2.6	3.6	2.7	4.7	4.8

・予約の内訳の確認。左の表の通り、既存予約者で約128袋、新規で約123袋の増加。計250袋の増加。GF個人は60袋超の増加。
・事務局より減らす量について、計画段階においては、不作の場合も考慮し、100袋ほどの余裕が必要と提案(現時点では計画に対し12袋不足の状態)

・2025年産米供給計画(改) (案)

2025年7月16日現在

					減量後	実 績				直近 3年 平均
2025年米		作付面積(a)	ベース	2025計画	2025	2024	2023	2022	2021	
くまさんの輝き	佐藤昭人	87.4 ※1	90	100		110	97	70	35	92
くまさんの輝き	佐藤真実	118a	0	70		160	152	122	68	145
くまさんの輝き	高丸和彦	40.9a	35	35		35	35	33	35	34
てんこもり	島川和也	200.9a	260	268		231	232	239	192	234
てんこもり	下田房雄	228.8a	300	360		313	244	281	264	279
にこまる	田上直樹	37.8a ※2	20	20						0
くまさんの輝き	林田英毅	0a ※3		0						0
	古庄廣美		0	0					4	
	外部米		0						30	
合計			705	853		849	760	745	628	
転換米				0		25	56			
内 訳	会	予約米	500	745	640	490	478	483	448	
		追加米	85	-12	93	119	110	82	76	
		GF個人	60	120	120	80	60	60	60	
		GF業者	160	0	0	160	100	80	60	
		焼酎	(11)	0	0	0	11	11	0	
		備蓄米(累計)	(11)	0		0	20	14	0	
未納米(期首)				(6)		(8)	(13)	(14)	(10)	

※1.転換期間終了に付17.7a増

※2.転換期間終了に付き17a増

※3.他に28a(転換期間2年目)有(約30袋)

※「ベース」の数量は直近3力年の実績等を考慮して決定する

・様々な意見を交わした末、既存予約者と新規予約者のどちらを大事にするかという考え方よりも、注文書にも書いてあった「天候その他の要因で予約分を全量をお届けできない場合は、ご予約頂いた組合員さんで分け合います」という会の理念に沿う考え方で行くことにたどり着いた。会の理念(総会時のスローガン)も読み上げ確認した。その上で、より公平感のあるやり方を議論した結果、昨年からの増加分(新規注文者は昨年度を0と考える)を一律減らしてもらうのが良いのではないかと考えた。シミュレーションで40%を減らしてもらうと約100袋の余裕ができることが確かめられたので、増分の40%カットをお願いすることとなった。せっかく減量に協力してもらった方達には申し訳ないが、一旦白紙に戻して増分の40%を減らしてもらうこととする。

・お知らせの方法は、委員長が文章を作成し、8月中を目途に配布する。

・古庄さんより、自分も少し出せる分がある。他の生産者にも自家消費分等から出せないか呼び掛けてはどうかと話があったことが下田さんより報告された。また、林田さんの転換米の出荷を永田事務長に要請して欲しいとあった。

5 その他

・6月21日(土)の田植え体験の報告 田上さんお世話になりました！

25名の参加(大人13, 子供12)でした。ほど良い曇り空で暑すぎずに楽しく最後まで植えることができました。

・田植えしてもらったところはとても育ちが良いです。まっすぐ並んで植えてあってありがたいです。今年こそは、収穫祭も出来たらその田んぼでやりたいなと思っているので、もしそうになったらご協力お願いします。

・田上さんより米保冷库の中が空くこの時期にジャガイモなどを保管できないかと相談があったが、米以外を入れるのは匂いやカビなどいろいろ心配されるので止めておこうとなった。雑穀冷蔵庫の中身を米保冷库に移動してそちらに野菜を入れるのは出来るのではないかと考えた。永田事務長に要相談。

6 今後の予定

・8月5日(火) 米小袋作業(生産者:下田さん、消費者:中島さん)生産者は9:00～精米、消費者は10:00～小袋詰め

・7月より精米を前日までに福岡が一部やるようにしている。約6袋分(1時間分)を生産者の分担とし、出来るだけ

・8月の米委員会は例年通りお休みです 消費者との交流を多くとれるようにしたい

2025年8月
米委員長 下田 房雄

提携米「ゆうきスター米」の年間予約注文について再度のお願い

令和7年産米の予約注文につきましては、多くのご予約をいただきありがとうございます。米に関する状況がひっ迫する中、先般予約数量の減量をお願いしましたところ、ご協力の意思表示を多くいただきました。その数は想定よりも多く3割を超えておりましたこと、まことにありがたく感謝申し上げます。しかしながら未だ生産予定数量を上回る予約数量となっており、米委員会では苦慮しているところです。さまざまなシミュレーションをしながら検討に検討を重ねたところですが、次のような案が妥当ではないかという結論に至りました。

- ① 減量のお願いの分は一旦白紙に戻す（ご了承いただいた方には申し訳ございません）
- ② 昨年より増やした分の40%をカットしていただく（増やしてない方は減らさなくても大丈夫です）
- ③ 新規申込された方は全体の40%をカットしていただく（昨年予約注文していない方も同様です）

この①～③を実行することにより、追加米用の在庫もいくらかは確保できるように計画できればと考えております。

組合員の方々よりいろいろな意見もいただいております。それらのご意見も考慮しながら上記のような案に至りました。年間予約注文書「お米の年間契約のススメ」（黄色の紙）2ページ目の3には「天候その他の要因で予約分全量をお届けできない場合は、ご予約いただいた組合員さんで分け合います」と我々の組合の理念が明記されています。

なお、この案につきましても生産者が出荷予定数量を満たした（全量が確保できた）場合に限りです。10月末ぐらいにならないと出荷数量は確定しませんので、案であって決定ではありません。米の出来具合によってはカットの割合が変わることもご承知おきいただきたいと思います。今は予想以上の豊作を祈るばかりです。